

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

令和 3 年 5 月 31 日

計画の名称	1 西武立川駅周辺まちづくり																															
計画の期間	平成22年度 ～ 平成23年度（2年間）					交付対象	立川市																									
計画の目標	西武立川駅改札口は駅南側にしか設置されておらず、駅北側の住民が駅を利用する場合には、南口まで迂回し駅を利用している。また、駅南側約7haが未利用であるため、駅舎は道路に面していない状況にあり、路線バス停留場から、駅舎まで約400m徒歩によりアクセスする状況となっている。このように、鉄道が地域を分断されている状況にあり、駅舎のバリアフリー化を含む駅舎改良において自由通路を整備し、地域分断解消を図るとともに、南側開発事業と併せて地域拠点の形成を図ることを目的とする。また、周辺基盤整備と併せ、交通結節点の強化を図る。																															
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 西武立川駅における乗降人員を7,813人/日（H21）から7,900人/日（H23）に増加（立川市総合都市交通戦略より） 西武立川駅利用者の満足度 平均スコアの10%増加（立川市総合都市交通戦略より） 																															
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">定量的指標の現況及び目標値</th> <th colspan="3">定量的指標の現況及び目標値</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値</th> <th>中間目標値</th> <th>最終目標値</th> </tr> <tr> <th>(H22当初)</th> <th></th> <th>(H23末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西武立川駅の乗降人員の調査をする</td> <td>7,813人/日</td> <td>—</td> <td>7,900人/日</td> <td>当初現況値は、西武鉄道HPで公表している最新データ（H21）</td> </tr> <tr> <td>西武立川駅利用者の満足度についてのアンケート調査をする</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>平成22年度から調査（平均スコアの10%増加）</td> </tr> </tbody> </table>											定量的指標の現況及び目標値	定量的指標の現況及び目標値			備考	当初現況値	中間目標値	最終目標値	(H22当初)		(H23末)	西武立川駅の乗降人員の調査をする	7,813人/日	—	7,900人/日	当初現況値は、西武鉄道HPで公表している最新データ（H21）	西武立川駅利用者の満足度についてのアンケート調査をする	—	—	—	平成22年度から調査（平均スコアの10%増加）
定量的指標の現況及び目標値	定量的指標の現況及び目標値			備考																												
	当初現況値	中間目標値	最終目標値																													
	(H22当初)		(H23末)																													
西武立川駅の乗降人員の調査をする	7,813人/日	—	7,900人/日	当初現況値は、西武鉄道HPで公表している最新データ（H21）																												
西武立川駅利用者の満足度についてのアンケート調査をする	—	—	—	平成22年度から調査（平均スコアの10%増加）																												
全体事業費	合計 (A+B+C)	684百万円	A	552百万円	B	111百万円	C	21百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	3.0%																						
事後評価（中間評価）																																
○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期																																
事後評価（中間評価）の実施体制						事後評価（中間評価）の実施時期																										
駅利用者及びバス利用者の満足度を調査するため、アンケート票を西武立川駅利用者に直接配布し、郵送で回収したアンケートを集計し、満足度の分析を行った。						令和2年9月8日から令和3年3月31日まで																										
						公表の方法																										
						市ホームページにて公表																										
1. 交付対象事業の進捗状況																																
交付対象事業																																
A1 基幹事業																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）	備考																	
									H22	H23	H24	H25	H26																			
1-A-1	交通	一般	立川市	間接	西武鉄道	西武立川駅地区都市交通システム整備事業	自由通路L=約30m、W=5.3m、E v、E	立川市							552																	
合計														552																		
B 関連社会資本整備事業																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）	備考																	
									H22	H23	H24	H25	H26																			
1-B-1	鉄道	一般	立川市	間接	西武鉄道	橋上駅舎整備事業	橋上駅舎の内（多機能トイレ、Ev1基、	立川市							111																	
合計														111																		
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																					
1-B-1	自由通路整備と併せて橋上駅舎（多目的トイレ、Ev1基、Es2基）をバリアフリー化することにより、安全・安心、利便性の向上を図る。																															
C 効果促進事業																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）	備考																	
									H22	H23	H24	H25	H26																			
1-C-1	公共交通	一般	立川市	直接	立川市	コミュニティバス導入事業	1台購入	立川市						21																		
合計														21																		

番号	一体的に実施することにより期待される効果				備考	
1-C-1	-					
2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況						
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・自由通路を整備を行った結果、交通の流れがスムーズとなり、駅利用者が増加した。 ・自由通路を整備を行った結果、利便性が向上し、駅利用者の満足度が増加した。 				
II 定量的指標の達成状況	指標①（西武立川駅の乗降人員）	最終目標値	7,900 人/日	目標値と実績値に差が出た要因	最終実績値として西武鉄道がHPで公表している平成23年度の乗降人員をみると、目標値には届かなかったが平成22年度よりは増加した。平成23年度当時、当該地区は土地利用がされてなく空地が多く大規模な開発計画の段階であり、乗降客数の増加が得られなかったと考えられる。	
		最終実績値	7,821 人/日			
	指標②（西武立川駅利用者の満足度）	最終目標値	—	目標値と実績値に差が出た要因		立川市では平成23年度末の当該地区についてははまだ開発途中であり十分な効果の測定が得られないと判断し、立川市総合都市交通戦略に基づき、10年後に調査を行い評価した。満足度については平成22年度の調査で1.65、10年後にその10%増加を目標としている。令和2年度に満足度の調査委託を行った結果、目標値を上回っており、この結果を最終実績値とした。
		最終実績値	2.97（満足度スコア）			
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		平成22年度の満足度調査では当該駅に「エスカレーターやエレベーターがなく不便」との意見が寄せられていたため、事業によりこうしたバリアフリー施設が整ったことは駅利用者等の利便性に大きく貢献したと考えられる。自由通路やEV等の整備により西武立川駅利用者の利便性が向上し、駅を中心に周辺の開発が進んだ結果、順調に乗降客数が増え、平成31年度の乗降人員は11,705人に達している。また、バスロータリーへのアクセスがスムーズになり、バス利用者数も増加した（平成22年99,978人/年→平成31年125,546人/年）。				
3. 特記事項（今後の方針等）						